

【令和3年度 政策・調整会議】

件名：新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方（案）の策定について

日時：令和3年8月24日（火）10：30～10：45

場所：第3庁舎7階 災害対策本部事務局室

●付議理由

令和元年東日本台風により施設、設備や収蔵品が被災し、館内での展示等の活動が不可能となり、長期に渡る休館を余儀なくされた市民ミュージアムの状況を受け、本市にとってどのような新たな博物館、美術館が必要であるかを示すため。

●付議概要

「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」の策定に向けて、新たな博物館、美術館の施設に係る方針と担う役割について基本的な考え方（案）を示し、広く市民意見を募集する。

1 これまでの経緯

- ・市民ミュージアムは、本市の文化芸術振興施策において重要な役割を担うとともに、市民に開かれた生涯学習及び知的交流の場としての役割を果たしてきた。
- ・市民ミュージアムは、施設の経年劣化への対応・あり方の再考など様々な課題を抱えており、これらを全庁的に共有した矢先、令和元年東日本台風により被災した。
- ・従来通りの機能を復旧するには多額の費用が見込まれるとともに、最大の浸水想定への対応も難しいことから、現施設・現位置でのミュージアム機能の継続は困難な状況となっている。

2 本市における新たな博物館、美術館の必要性

- ・（博物館）多様性に満ちた川崎の歴史と文化を未来に引き継ぐとともに、知ること、学ぶことが楽しめ、様々な交流が生まれる場を提供する地域の博物館として、こうした役割を担う博物館が必要である。
- ・（美術館）川崎市域の文化芸術を幅広く紹介する役割や、市民の文化芸術活動の拠点としての役割を個人の顕彰的な美術館が担うことは難しく、また、創造性や文化的感性を育む学びの機会を提供し、さらに、誰もが優れたものなどを経験・体感し、楽しむことができ、多様なつながりを創出できる場を提供するアートの中心的な施設としての美術館が必要である。

3 基本的な考え方

- ・現施設・現在地でのミュージアム機能の再開は行わず、新たな博物館、美術館の施設は、可能な限り被災リスクの少ない場所に設置することを検討するとともに、融合化を前提とした検討を進める。
- ・市民ミュージアムが果たしてきた役割と、文化芸術振興会議からの答申、新たな博物館、美術館の必要性を踏まえ、「川崎の歴史と文化を未来へつなぐ」「文化芸術的な視点からの人材育成と学びの機会の提供」「文化芸術を活用したまちづくりへの寄与」を新たな博物館、美術館の役割とする。
- ・本考え方に基づき、「（仮称）新たな博物館、美術館に関する基本構想」及び「（仮称）新

たな博物館、美術館に関する基本計画」の策定に向けた検討を進める。

●結論

案のとおり了承。